

大多喜町子ども読書活動推進計画  
(第二次)



平成26年4月  
大多喜町教育委員会

## 大多喜町子ども読書活動推進計画

はじめに	1 p
第1章 第一次計画における取組・成果及び課題	1 p
第2章 計画策定の背景	2 p
1 子どもの読書活動の意義	
2 子どもの読書活動の現状	
第3章 基本的な考え方	3 p
1 計画策定の目的	
2 計画の基本方針	
3 計画の期間	
第4章 読書活動推進のための取組	4 p
1 家庭、地域における子どもの読書活動の推進	
2 保育園における読書活動の推進	
3 学校における読書活動の推進	5 p
4 図書館における読書活動の推進	6 p

## はじめに

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていくうえで、欠かすことのできないものです。

本の中の物語がもつ未知の世界を体験する事によって、思考力、想像力、表現力等の生きる基礎力を養うとともに、情操や他者への思いやり、生命を尊ぶ心などが育まれ子どもが健やかに成長していく上で重要な意味を持ちます。

近年、テレビゲームやインターネット、携帯電話等の様々な情報メディアの普及など情報化社会の中での利便性が高まり子どもの生活環境は大きく変化し、子どもの文字・活字離れが進行し、その影響が懸念されています。

今後は、幼児期からの絵本とのかかわりや童話等に親しむ機会をもつとともに、大人が多種多様な本の中から、優れた本を子どもに手渡し、本を読むことの楽しさを伝えることが重要とされています。そのためには、家庭、地域、学校、保育園、行政が連携し、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならないという法の基本理念が示されています。

そこで大多喜町では、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき国の「基本計画」及び千葉県の「推進計画」をもとに、子どもが自主的に本に触れ読書活動ができるように地域全体で環境整備を図っていく必要があるため、第一次計画の基本的な考えを継承し「第二次 大多喜町子ども読書活動推進計画」を策定することとします。

## 第1章 第一次計画における取組・成果及び課題

第一次計画の基本方針に基づき、地域、学校、図書館、関係機関において、それぞれが役割を認識し、読書活動推進における環境づくりの取組を行いました。

### 1 家庭、地域におけるこどもの読書活動の推進

#### (1) 成果

・乳幼児相談会場でブックスタート事業の実施を行うことで、親子で一緒に絵本を読むことにより親子の絆を深め、子どもが本にかかわる機会の充実等を図ることができた。

#### (2) 今後の課題

・家庭での積極的な読書時間を設けるための、読書活動に係る行事の充実と啓発を図る必要がある。

### 2 保育園における読書活動の推進

#### (1) 成果

・絵本のもつおもしろさについて知ってもらうため、読み聞かせボランティアの協力により、毎月保育園で絵本による読み聞かせを行い読書活動の啓発に努めた。

#### (2) 今後の課題

・保育園に於いてもいろいろな取組がおこなわれているが、今後もボランティアの活用をさらに推進していく必要がある。

### 3 学校における読書活動の推進

#### (1) 成果

- ・町内の全小学校で毎週、朝自習の時間を活用して読み聞かせボランティアによる読み聞かせを行い、読書への興味、関心を高めている。

- ・夏休み期間中、図書館でのボランティア、職場体験に多くの生徒が参加して図書館に対する関心が高まり利用する生徒が増えた。

#### (2) 今後の課題

- ・調べ学習の資料提供の機能充実が必要である。

### 4 図書館における読書活動の推進

#### (1) 成果

- ・毎月行っている「おはなし会」に小さい子どもと父親の参加が増えてきた。

また、おはなし会終了後には七夕飾り等季節に応じた工作を親子で行い、親子の絆をも深める一助となっている。

- ・読み聞かせボランティア養成講座を行い、ボランティアの育成に努めた。

- ・職員は、県主催の研修会に積極的に参加し、専門的知識や技術を習得し読書活動の推進に努めた。

- ・大人のための朗読会を8月に実施し、大人への読書活動推進に努めた。

#### (2) 今後の課題

- ・調べ学習への資料提供など学校との連携を図っていく必要がある。

## 第2章 計画策定の背景

### 1 子どもの読書活動の意義

乳幼児期は、保護者や周囲の大人の愛情のこもった絵本等の読み聞かせが、子どもの心にぬくもりや安らぎを与え、子どもの豊かな感性、情緒、困難を乗り越える力、知恵、思いやりの気持ちを育むもとになると言われています。

また、児童が自ら本を読むことにより言葉を理解し、豊かな創造力や表現力を身につけることができます。子どもの頃の一冊の本との出会いが生きる力になり人生の指針ともなりますので読書の果たす役割は大きいと考えられます。

その意味でも子ども読書活動は、子どもが自分の将来に夢をもち、諸能力を身に付け自己実現を図りながら健やかに育っていくうえで、欠くことのできない大切な活動であり、子どもたちが、それぞれの発達段階に応じて充実した読書体験を得ることができるよう、子どもの読書活動を社会全体で積極的に推進していく事が必要です。

### 2 子どもの読書活動の現状

本町においては、国の第一次基本計画を受けて、平成21年4月に「大多喜町子ども読書活動推進計画」を策定し、平成25年度までの5年間様々な施策を実施してきました。

保育園では日々の保育の中で読み聞かせや紙芝居の時間を積極的に設け、小学校ではボランティアによる読み聞かせを実施し、読書の動機付けや情緒の安定を図っています。大多喜図書館天賞文庫では、子どもが楽しめる質の高い資料の収集や調べ学習などに対応する資料の充実を図るとともに、お話し会の開催や乳幼児相談時でのブックスタート事業（ブックリストの作成や配布）を実施することで読書への関心を高める努力をしています。

これらの取り組みにより地域や保育園、学校での読書の大切さは広がったものの図

書館の立地状況からすべての子どもたちが、読みたい本をいつでも手にとれる環境にあるとは言えません。

### 第3章 基本的な考え方

#### 1 計画策定の目的

第二次計画は、第一次計画策定と同様に大多喜町の現状と課題を踏まえ、家庭、地域、学校、保育園、行政等がそれぞれの役割を認識し、相互の連携のもと、子どもの読書活動の推進に取り組むものとします。

この計画では、子どもが多くの本に出会い、その楽しさを知ることにより、読書を通して生きる力を育む事ができるよう、読書活動の整備を図るとともに、自ら進んで読書に親しむ子どもの育成を図ります。

#### 2 計画の基本方針

##### (1) 子どもが読書に親しむための機会の提供

読書に親しむためには、多くの本との出会いが大切になります。そのために家庭、学校、図書館等の関係機関が連携して、子どもの読書活動が一層推進されていくような機会の提供に努めます。

##### (2) 子どもの自主的な読書活動の推進

読書は、子どもが学ぶ楽しさや知る喜びを得て、さらなる知的好奇心を満足させ、生涯にわたって自発的に学ぼうとする習慣を身につけるよう、一人ひとりの自主的な読書活動の推進を図ります。

##### (3) 読書活動についての啓発活動と推進体制の整備

子どもを取り巻く社会全体で読書活動を推進するため、保護者をはじめ地域住民等幅広い人々の理解と関心を深めることが重要です。このため子ども読書活動を推進する社会的気運の醸成を図るため、その意義や重要性について普及啓発を図ります。

#### 3 計画の期間

平成26年度から平成30年度までの5年間です。

## 第4章 読書活動推進のための取組

### 1 家庭、地域における子どもの読書活動の推進

#### (1) 子どもの読書活動推進における家庭の役割

本の読み聞かせや家族で一緒に読書をするなど、家庭での積極的な読書時間を設けることにより、子どもが本と接する機会の充実を図り「家庭の中で日常的に本と親しみ、自ら本に手を伸ばす子どもを育てる」など読書の習慣化の推進に努めていきます。

そのためには、子どもが本と出会うきっかけづくりが重要です。町の母子保健事業で実施している乳幼児相談などで子どもと親が集まる機会を利用し、乳幼児が絵本を介して親子の絆を深めるブックスタート事業の充実や図書館での本の読み聞かせの奨励など、親子と一緒に読書を楽しめるような環境づくりが必要です。

#### (2) 「子ども読書の日」の啓発

「子ども読書の日」の意義についての理解を深めるとともに、4月23日の「子ども読書の日」の関連事業への参加について啓発に努めていきます。

### 2 保育園における読書活動の推進

#### (1) 保育園における読書活動の取組

子どもが絵本に初めて触れる時期は、生後5ヶ月頃からと言われています。そんな小さな子どもたちが本好きになるかは、絵本のなかで味わった楽しみの量と言われています。読み聞かせを繰り返すことで絵本の良さを感じる力、読み取る力が育つように努めていきます。日々の保育のなかで読み聞かせは定着してきていますが、各園の実態に合わせて読み聞かせの時間や環境を工夫していきます。

また、幼児の年齢、発達に見合った絵本、興味や関心に即した絵本を様々なジャンルから選ぶことにより更に絵本や物語に親しめるように努めていきます。

#### (2) 保護者を対象とした読書の啓発

子どもに絵本や物語の楽しさを知ってもらうため朗読会やおはなし会等に積極的に参加できるような環境づくりに努め、読み聞かせの意義やその大切さを広く啓発するとともに勉強会や講習会等を実施し保護者も読書への関心が持てるようにしていきます。

#### (3) ボランティアによる支援

幼児が絵本の楽しさと出会うためには、大人による読み聞かせは欠くことのできないものです。読み聞かせは、職員だけではなく身近な大人に読んでもらうことで心地よさや愛情が伝わることから読み聞かせボランティアの協力体制を作り、保育のなかで積極的に読み聞かせの機会を設けていきます。

### 3 学校における読書活動の推進

#### (1) 子どもの読書活動の推進における学校の役割

子どもの読書習慣を形成していく上で、学校はかけがえのない大きな役割を担っています。子どもが生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を形成するため、学校においては、子どもが自由に読書を楽しみ、読書の幅を広げていくことができる環境を整備することと適切な支援を行うことが求められます。

#### (2) 子どもの読書習慣の確立・読書指導の充実

読書習慣を身に付け、読書の幅を広げるためには、読書の機会の拡充や図書の紹介、読書経験の共有により、様々な図書に触れる機会を確保することが重要です。そこで、次の4点を実践していくよう推進します。

- ①全校での朝の読書活動
- ②推薦図書コーナーの設置
- ③児童生徒が相互に図書を紹介し、様々な分野の図書に触れる機会を増やす。
- ④卒業までに一定量の読書を推奨する目標を設定する。

#### (3) 学校図書室の機能の充実

学校図書室は、教育課程の展開に寄与する「学習情報センター」としての機能を果たし、学校教育の中核的な役割を担うことが期待されています。「ブックトーク」活動・「ストーリーテリング」活動、広報活動や図書情報データベースの作成など地域ボランティアと連携して活動を支援していきます。

更に子どもが生き生きとした学校生活が送れるように、ストレスの高まりや生徒指導上の諸問題へ対応するため、自由な読書活動の場である学校図書室について「心の居場所」としての機能を充実するよう支援していきます。

#### (4) 障害のある子どもの読書活動の推進

障害のある子どもが豊かな読書活動を体験できるよう、障害の状態に応じた選書や環境の工夫、視聴覚機器の活用を図ります。

また、点字図書や全国の点字図書館等の点字データの相互利用、教材作成に関する情報提供等を促進します。

#### (5) 図書館での職場体験やボランティア活動の実施

町の図書館における小・中学生や高校生の職場体験の経験を活かし、子どもたちが進んで読書活動に親しみよう様々な活動を推進していきます。

## 4 図書館における読書活動の推進

### (1) 図書館における読書活動

幼いころから読書習慣を身につけ、成長段階に合った読書活動を継続する為には、地域に密着した図書館の役割が重要です。

また、子どもが読書に親しむ環境を作るためには、子どもへの働きかけだけではなく、周囲の大人に促すことも重要であるため、子ども読書活動推進の担い手となる層を広げ、地域で活動している読み聞かせボランティアへの支援にも重点を置きます。

図書館では魅力ある蔵書の充実を図り、おはなし会や朗読会等を開催し、保育園や学校等への団体貸出、大型絵本の貸出を通じて、子どもが本に親しむ機会の提供に努めます。

また、調べ学習の内容は多岐にわたっているため、児童用レファレンス本を充実させます。また、親子一緒に楽しめる紙芝居や手遊び、民話や童謡の本等図書館資料の整備に努めます。

### (2) 図書館職員研修の充実

子どもの読書活動を推進していく上で、司書は重要な役割を果たしています。専門的知識や技術を習得し、質的向上を図れるよう県内外の研修に参加し自己研修を積極的に行っていきます。

### (3) おはなし会と夏休み朗読会の充実

現在、図書館では毎月の「おはなし会」と8月に「夏休み朗読会」を実施しています。今後も子どもと本を結び付けるため一層の充実を図っていきます。

### (4) ブックトークやアニメーションの実施

テーマに沿って様々な本を紹介するブックトークは、子どもにとって新しい本との出会いとなるために有効だと言われています。また、あらかじめ読んだ本の内容についてのクイズやゲームを楽しむという読書へのアニメーションは、子どもたちの読解力を引き出すことに効果的であると言われています。このようなことから図書館でもブックトークの実施やアニメーションへの取り組みを検討していきます。

### (5) ブックスタート事業の充実

絵本を介して親子の絆を深めるための事業として乳幼児相談時においてブックスタート事業を実施しています。今後、町の母子保健事業とより一層の連携を図っていきます。

### (6) 子どもの読書活動推進のためのボランティアの育成

ボランティアの協力を得て、おはなし会と夏休み朗読会を実施しています。今後、ボランティアの育成を図るため、読み聞かせに関する基本的な養成講座を開催しボランティア登録制度を確立するなど各ボランティア活動がより良質なものになるよう努めていくとともに、指導的なボランティアの育成に取り組んでいきます。

### (7) 「子ども読書の日」事業の実施

子どもの積極的な読書活動への意欲を高めるため、4月23日の「子ども読書の日」の啓発事業として絵本の読み聞かせ・展示・手遊び・わらべうたの会などを実施していきます。



(8) 子どもに対するおすすめ本のブックリストの作成

現在、図書館では0歳から中学生まで年齢毎、学年毎に「おすすめ本リスト」を作成して利用者に配布しています。子どもたちがより多くの本と出会えるよう、より充実したおすすめ本リストの作成に努めていきます。

(9) 小・中学生に対する総合的な学習への対応

近年、総合的な学習による調べ学習への比重が高まっています。そのため、図書館での調べ学習、それに伴う団体への貸出、また利用者からの質問や相談に対し必要な情報を探し出す方法や手段をアドバイスするレファレンスなどで学校との連携が一層重要になってきています。また、双方が連絡を密に取り合い図書館資料の充実を図るとともに子どもが気軽に相談できる体制を整えていきます。

(10) 職場体験学習の受け入れ

総合的な学習の一環としての職場体験事業として図書館は児童生徒の受け入れをしています。図書館について、より理解を深めてもらうためにも更に受け入れを推進していきます。